

unicef 

ユニセフ vol.18 No.72

## 大阪通信

大阪ユニセフ協会ニュースレター  
2018年11月15日発行

## contents

活動フォトニュース .....	2
若い世代の声 .....	3
【レポート】SDGsからみた大阪の 子ども .....	4
活動紹介 資料館見学 2 〈舞鶴引揚記念館〉 .....	6
活動日誌 (8月~10月) .....	7

## 2018年夏の日記から

今年を出だしからいいことがなかった。2月に入ってすぐ金子兜太<sup>1)</sup>が死んだ。享年98歳。学生時代の友人が集まっておしゃべりをする。最近は空気が妙だ。声を落として「米国だけでなく、日本も沈没するのじゃないか」という男。「ノアの箱船を作っておかなくていいのか」と心配性なもの。箱船は60mの立方体で内部は7階、と知ったかぶりをしておいた。

心配のトップは、難民、移民問題だ。日本の内政は、話題にならない。おもしろくないのだ。難民問題の被害者は子どもと女性。なにはともあれ募金を増やそう、と大阪協会の入口に「ロヒンギャ難民支援募金」と大書した紙を張り、人気の着ぐるみの名前をとって「アリス募金」を始めた。毎月1回、難波駅、高島屋前、天王寺駅でベテラン、若者、研修の学生10数人が街頭に立つ。ミナミは外人観光客が多い。韓国語、中国語の看板を作った。「やった!」と歓声を上げてボランティアが引き揚げてきた日は、募金が1万円の大台に乗った日だ。シリア難民、ロヒンギャ難民。ドイツでさえ難民追放デモ。イタリアでは移民受入れの厳格化を閣

## ユニセフの真価 問われる時代に



7月21日に行われたアリス街頭募金 (JR難波駅前)

議決定。ロシア、トルコがいつシリア攻撃を始めるか。トランプは2019年の移民受入れの上限を3万人にした(前年は4万1千人)。世界の饑餓人口は8.2億人に増えた。3年連続の紛争と異常気象のせいという。

新聞は1面にコラムを置く。新聞の顔、だ。一紙のコラムに、大阪地裁で北朝鮮系の高校の無償化OKだったのが、2審はダメと出た判決で「外国人教育を含めて、税金を使うなら日本に資するものであるべき」とあった。最高裁の結論を待たねばならないが、この伝法でいけば、ユニセフはじめ世界のボランティア活動はほとんど成り立たない。ユニセフの場合、原則として自国の子どものために募金を使ってはならないからだ。

日本は、かつて貿易黒字の還元による「国際貢献」を旗印にODA<sup>2)</sup>で世界のトップだった。国連常任理事国になれないことがわかると、「量より質」「国益に配慮した戦略性」とヘンなことをいい出し、ずるずると落ちている。「移民強国」を目指すしかないことを真剣に理解していないのは、どうやら日本人だけのようだ。政府は「一定の専

門的技術を持った、即戦力の外国人を受け入れる仕組みをつくる」のだそう。あくまで自分さえよければよい、のだ。夏の終り、「森・加計」の文書改竄で自殺した財務省職員の父が、記者に「財務省なんかやめときゃよかったんや」と語ったと載っていた。年老いた父の悲しみ。

沖縄慰霊の日、広島、長崎被爆記念の日、そして敗戦。忙しかった夏の日々、今年ほど悲しい夏はなかった。金子兜太の句と言葉で締めくくる。

〈原爆許すまじ蟹かつかつと瓦礫あゆむ〉

「東電なんて会社は、私が出た日銀と一緒に、国民のことなんか端から考えていない」。

(古野喜政)

(註)

- 1) 俳人、東大から日銀へ。海軍に徴用され、トラック島で生き残り復員、日銀の労働組合初代事務局長、報復で定年まで地方を転々。澤地久枝の依頼でデモ用に大書した『アベ政治を許さない』が有名。
- 2) ODA—開発途上国に対して各国政府、国際機関が行う援助。